

## 小児がん治療における陽子線治療:陽子線治療への期待と課題

相部 則博

京都府立医科大学 放射線診断治療学

陽子線治療はその物理学的特性から、続発がんを含めた有害事象発生の低減が期待され、小児がん治療における利用が広まってきている。確かに陽子線治療は有用であり、長期的な晩期有害事象が問題となりやすい小児がん治療において、その利用価値は高く、非常に有望な放射線治療である。しかし、陽子線治療はまだ発展途上の治療であり、特に強力な化学療法を併用する小児がん治療においては、現代の陽子線治療の欠点も理解しながら治療提供を行うことが肝要であると考えられる。本講演では、現代の陽子線治療の利点、欠点に触れながら、今後の陽子線治療への期待と課題について述べたいと思う。